

みなさんこんにちは、県立生涯学習推進センターメルマガ担当です。

昨日、5月18日は「こ(5)と(10)ば(8)」の語呂合わせと、言葉の「葉」が5月の新緑の瑞々しさを表していることから「ことばの日」という記念日でした。制定した団体は定かではありませんが、「ことば」を大切に使い、「ことば」によって人と人とが通じ合えることに感謝し、「ことば」で暮らしをより豊かにすることが目的とのことでした。

最近、日本語に関する話題やクイズ等をテレビで見る機会が多くなったように思います。特にも「若者言葉」と言われる類の話題をよく目にします。

「若者言葉」とは10~20代の世代、いわゆるZ世代が使う言葉で、「草」「きまZ」「天最高」などといったものです。

「草」:(笑)を意味する語で、(笑)を省略して「w」と書かれていたが、「wが草に見える」という理由から使われるようになった。

「きまZ」:気まずいことを意味する語。TwitterやInstagramなどのSNS上でよく見られます。

「天最高」:天才と最高を掛け合わせたもの。

他にもまだまだたくさんありますが、このような言葉を、突然、お子さんに言われ、頭の中が「???」になったり驚いたりした経験はないでしょうか？

我が家の子どもたちは、「ヤバい」をよく言うようになってきました。「ヤバい」は、元々の【大変だ】以外に、【良い】【美味しい】【楽しい】【美しい】など、とても広い意味で使われ、子どもたちにとっては非常に便利な言葉なのかもしれません。(私は今でも「ナウい」とか「バッチグー」などを使いますが、これは若者言葉ではないようです…。)

こういった「若者言葉」を日本語の乱れととる方もいるかと思いますが、実は今からおよそ1,000年前、『枕草子』(清少納言)の中ですでに、当時の若者の言葉の乱れを指摘する記述があります(詳細は『枕草子』第186段をご覧ください)。若者の言葉遣いに対してネガティブなイメージを持つ現象は、古くからあったようです。

いつの時代も大人の世代は若者の言葉遣いの乱れを感じてきたのです。若者言葉や言葉の乱れは普遍的にあるものですから、心配し過ぎる必要もないのかもしれません。

とは言っても、我が子の若者言葉は正すべきか、本人に任せるべきか、悩むところです。我が家では、あまり口うるさくは指摘しませんが、3つのことにポイントを置いて指導しています。

●相手を傷つける言葉は指摘する

子どもは幼い時ほど侮辱的、攻撃的な強い言葉を使いたがります。相手を傷つけたり、差別したりする言葉は「使ってはいけない言葉」として指摘し、使い方を間違えると相手を傷つけてしまう危険性を説明しています。

●語彙力の低下につながる言葉遣いには注意する

先ほど紹介した「ヤバい」。多様な意味があり便利と書きましたが、もし、「ヤバい」の一言でなんでも片付けてしまうクセがついてしまうと、語彙力の低下につながるおそれがあるため、具体的にどうヤバいのか、他の言葉で言うとどういう意味なのかを聞き、なるべく多くの言葉を使うように軌道修正しています。

●周りの大人が自分たちの言葉遣いに注意する

子どもは周りの大人たちの言葉遣いをマネしがります。言葉の持つ意味を理解しないままに、刺激的または攻撃的な言葉を使ってしまうものです。親を含めて周りの大人が自分の言葉遣いに気をつけることが一番だと思います。

もし、子どもの言葉遣いが気になるようであれば、まずは自分の言葉遣いを振り返ってみることも大切でしょう。

子育てに関する悩みを一緒に考えます☆

子育て電話相談「すこやかダイヤル」 0198-27-2134

☆メルマガへのご感想、アドレス変更・配信停止はこちらへ(^_^)/

kosodatem@pref.iwate.jp

★=====★

【発行・文責】岩手県立生涯学習推進センター

【HP】 <https://manabinet.pref.iwate.jp/hp/>

【Facebook】 <https://www.facebook.com/manabinetiwate/>

【Twitter】 <https://twitter.com/manabinetiwate>

★=====★